

ドローン等を活用した効率的な誘殺板の散布手法に関する調査研究

ポイント！

- かんきつ類等の大害虫であるミカンコミバエは、毎年、中国大陸、台湾等から風に乗って日本に飛来してくるから、侵入警戒調査による**早期発見・早期防除**に努めている。
- ミカンコミバエが発見された場合は、周辺に**誘殺板（本虫を誘引して殺虫する防除資材）を設置して防除を実施**。
- ミカンコミバエの定着・まん延を防止するため、**迅速かつ省力的に誘殺板を散布する手法を確立する必要**がある。



ミカンコミバエ

現状・課題

・かんきつ類等の大害虫であるミカンコミバエは、毎年、中国大陸、台湾等から風に乗って日本に飛来。

・ミカンコミバエが発見された場合は、発見地点の周辺に誘殺板（本虫を誘引して殺虫する防除資材）を設置し、防除を実施（1～3枚/ha）。人力での設置が困難な地域（山間部等）においては、有人ヘリコプターで誘殺板を散布。**効果的にミカンコミバエを防除するには、発見後、迅速に誘殺板を設置することが重要。**

・現状では、山間部等においては、**有人ヘリコプターによる誘殺板の散布以外に散布方法がない**。ヘリコプターによる散布のスケジュール調整には時間を要することから迅速な散布が難しい状況。



誘殺板
4.5 × 4.5 × 0.9cm
約12g/個

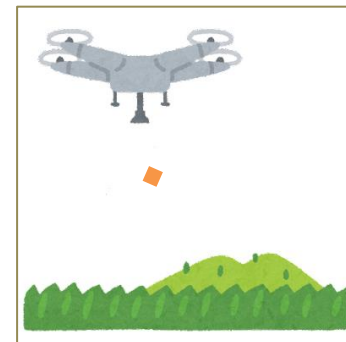


ヘリコプターによる
誘殺板の散布
(1～3枚/ha)

必要な研究

ドローン等を活用した効率的な誘殺板の散布手法に関する調査研究

- ①ドローン等を活用して効率的に誘殺板を散布できる機器の開発及び改良
- ②ドローン等を活用した誘殺板の空中散布マニュアルの作成



研究成果の活用

ドローン等によるミカンコミバエ防除のための空中散布マニュアルに基づき、迅速かつ省力的に誘殺板の散布を行い、**ミカンコミバエの早期防除を実現**。